株式会社みらいもりやま21 5周年記念誌

みらいのもりやま

株式会社みらいもりやま21

発行 株式会社 みらいもりやま21 〒524-0022 滋賀県守山市守山一丁目8-7
TEL 077-514-8321 FAX 077-514-8325 Mail info@moriyama21.jp Web http://moriyama21.jp/

Interview NO.01

株式会社みらいもりやま21
代表取締役

清原 健

昭和22年　滋賀県生まれ
平成元年　（株）清原代表取締役社長就任
平成19年　守山商工会議所副会頭就任
平成20年　（株）みらいもりやま21 代表取締役社長就任
平成25年　守山商工会議所会頭就任

「住んでよし」でないとまちはダメ。市民から必要とされ愛される会社をキーワードに無我夢中の6年間。

Q 当初、社長就任に対しては積極的でなかったと伺いました。当時の思いは？

色々な方から社長を引き受けてくれないかと打診を受けていました。当時私は守山商工会議所の副会頭をしておりまして、平成25年にお亡くなりになりました会頭（当時）の大崎忠男さんからも「どうしてもやれ」と言われていました。が、やはり、ずいぶん悩みました。ものづくりしかわからないし、しかも、経験のないことですから何もかもが未知の世界。他のまちづくり会社の話を聞いても、うまくいっている事例もなかなか無いのです。引き受けてしまったら大変だな、また無給で大変な苦労をするぞと人からも言われました。周囲も不安がっていました。最終的には当時、私の会社の専務だった息子が一言「賛成するよ。望まれているなら、引き受けたら」と背中をポーンと押してくれたことが決断の大きなきっかけになりました。

社長を引き受けた以上は結果を出さないといけません。私の性格もあるのでしょうが、引き受けてからは迷いなしに前進あるのみでした。大崎会頭のご尽力もあり、5,225万円という大きな資本金が集まりました。それは多くの市民や企業から託された熱い思いでもあります。それを無駄にしてはならないと自分にプレッシャーをかけました。私自身わからないことだらけでしたので、まずは勉強だということで、中心市街地活性化基本計画（以下、中活）に取り組んでいる全国の地域の事例を見て回り、学びました。まちづくり会社のこと、テナントのこと、リーシング（テナント誘致）のことなど。まちづくり会社の社長は、名誉職や充て職のようなパターンが多く、社長自ら学びに出ている人はほとんどいらっしゃらないのが現実です。中小機構（中小企業基盤整備機構）近畿支部が呼びかけたまちづくりネットワーク研究会には随分お世話になりました。勉強会の後の懇親会ではお酒も入り、担当者の本音が聞き出せ、そこに吸収すべきものがたくさんありました。物事の表裏をしっかり見て、成功事例よりはむしろ失敗事例が参考になりました。当時は会社の利益が出ていなかったので、自費で行っていましたね。

故 大崎忠男氏（守山商工会議所第三代会頭）

平成22年5月21日 第5回近畿 中心市街地活性化ネットワーク研究会
滋賀県大津市「なぎさのテラス」前にて

立ち上がったからには資本金を無駄にせず早く収益事業を確立しないと、という焦りもありました。タイミング的に幸運だったのが、リーマン・ショック前に資本金を集めることが出来たこと。そして、平成20年9月に会社を設立し、中活を翌21年の3月にスタート。直後の5月に国のふるさと雇用創出事業があり、3人の職員を雇い入れることができました。人件費を制度活用でまかなえたのは大きかったと思います。この頃、私の人生の先輩として尊敬するある方に「肩に力が入りすぎでは？公益性ある事業しながら、会社がそんなに儲かるわけない。そこにとらわれ過ぎないほうがいい。この会社は守山のために頑張っているんやという事を市民にわかってもらい、市民からこの会社を潰したらあかんと思って

もらえる、そんな会社にするのが一番大事では」と言われたんです。これを聞いた時になるほどと。みんなに助けてもらったらいいんだと。そういう広がりを作っていくのが私の仕事なんだと。市にも、みらいもりやま21の取り組みに協力してもらう代わりに、我々は市が出来ない部分を民間の発想でやると。市の職員ともいい関係でお互い協力し合えています。

Q「うの家」「あまが池プラザ」「チカ守山」3つの施設整備事業と様々なイベントにも取り組んでこられました。実績を振り返っての感想は?

会社が出来てから6年近く経ちますが、私にとって正直、長かったです。この間、「守山市歴史文化まちづくり館　守山宿・町家“うの家”」「守山市中心市街地活性化交流プラザ あまが池プラザ」「チカ守山」と3つの施設整備と新しいイベント展開なども行ってきました。

色々な問題もたくさん起こったし、眠れない夜も何度かありました。今となっては懐かしささえ感じますがね。テナントの選定などもきちっとした手順に則って、「守山のまちのために」と考え入居店舗を決めましたが、最終決定までには紆余曲折がありました。しかし、基本的にブレなかったですね。結果、整備事業で取り組んできた施設にはユニークで素晴らしいテナントが入り、いい形で推移しています。

会社が動いていく中で職員が想いを持ってイベントにも取り組んできました。いわゆる三種の神器と言われる「100円商店街」「まちゼミ」「まちなかバル」については、いずれも滋賀県では守山が初めて開催しました。行政の人間がなかなか入っていけない商業者の方々の中に飛び込んでいって、はじめは拒否反応

平成24年1月29日「守山宿・町家 うの家」オープニングセレモニーにて

もありましたが、実際の開催にこぎつけました。担当者の強い想いがなければ出来ないものです。まちや商店街の活性化にある一定の効果はあったと思いますが、これはどうしても続けていかなければならないものだとは思っていません。継続するにこしたことはありませんが商業者自らのリーダーシップが大切ですし、一発花火的なイベントよりも小規模でも連鎖的に続く、その場所その場所にふさわしいイベントが行われていくことが大切だと思っています。「小規模連鎖」ですね。守山らしさって、やはり「住みやすさ」だと思うのです。このコンセプトは外してはいけないだろうと。「住みやすさ」の中で、適度なにぎわいを作っていく。そういう視点が大事だと思っています。

平成26年2月13日
「チカ守山」オープニングセレモニーにて

会社が出来て5年の節目だった昨年、実は社長を交代させてもらうつもりでした。そこに、守山駅前の長年の懸案事項だった「セルバ守山」の地下活性化事業の話が出てきました。オープンさせてからじゃないと社長交代は無責任だと、もう少し頑張ることにしました。この事業も本当にいろんな試練にぶつかり苦労しました。変わらなくてもいいと思っておられる地権者の方々もおられます。関わる人も多くて、良かれと思って話をしに行って怒鳴られもしました。そういう中で関係者の方たちとの調整が大変でした。幸い、私は自分の事業にまわりの方との利害関係があまり無かったので、受け入れていただきやすかったのかなと思います。

Qみらいもりやま21のこれから

みらいもりやま21はまちづくり会社には珍しく職安等の応募で採用した職員がほとんどです。行政や商工会議所などからの出向職員を受け入れている会社が多いのですが、うちは最初から自前主義です。出向者はいずれいなくなる。バリバリやっていた人がいなくなると大変ですしね。それだけに職員たちには将来的なリスクもあります。職員の相談事には時間を作って必ず話をとことん聞くようにしてきました。民間の発想、経営感覚を身につけてもらおうと一週間に一回、必ず会議を行ってきました。自前で職員を育てないとやはり駄目だと思います。市民とともに、自分たちで運営し、自分たちで考えるという姿勢です。もちろん市の応援は必要ですがね。取締役の皆さんもそれぞれ独自のノウハウを持っておられる方ばかりで、月1回必ず役員会を開き、いろんな場面で、支えていただきました。職員たちと一丸となって取り組め、ありがたかったです。また、多くの団体、サポーターの皆さんからご支援をいただきました。そのパワーがあればこそ、ここまでこれました。感謝です。

県内でもまちづくり会社への注目度があがっており、各地域の現場担当者が情報共有などするための「滋賀まちづくり会社フォーラム」という会を立ち上げることになりました。今のところ、長浜、彦根、近江八幡、東近江、守山、草津、大津の7地域の参加が決定しています。皆様からご依頼がありまして、立ち上がりの時期だけ私が会長をさせていただくことになりました。守山での経験もどんどん発信していこうと思っています。情報を共有化することにより、それぞれの地域が遠回りしないですむことがあれば幸いです。

最近、このように色々な地域から注目いただいたり、視察研修を受け入れたりする機会が増えてきています。評価していただけることはありがたいことですが、私は守山のまちづくりはまだまだ道半ばだと感じております。職員が慢心することなく、みんなに支えられているんだという自覚をもって守山のために率先してより一層の努力と工夫をしてくれることが願いです。

また、守山市の取り組みの特色でもありますが、毎月一回、市と商工会議所、まちづくり会社が連絡会議をしてきました。さらに今は文化体育振興事業団も加わり情報共有や意見交換を行っています。連携が密になり、費用対効果も高まります。財政状況がますます厳しくなっていくなか、大切なことだと思います。まちづくりのリーダーは市長です。市長のまちの活性化に対する強い思い、リーダーシップのもと、取組めているのが守山の強みだと思います。商業活性化、イベントや箱物だけでなく、そこに文化とか教育とか子育て支援とか福祉とか「住みやすいまち」のコンセプトがしっかりとあることが大切なのです。「住んでよし」でないと、まちはダメです。それがあって「来てよし」なんですね。これからも職員が中心になって努力をし、企画や交渉や色々なスキルをあげて、一層、市民から慕われる「この会社潰したらあかん」と言ってもらえる存在になっていかなければなりません。

平成26年4月28日
守山商工会議所会頭室にて

Interview NO.02

守山市 市長

宮本 和宏

昭和47年 大阪生まれ
平成８年 建設省(現 国土交通省)入省
平成18年 守山市役所へ技監(部長級)として出向(3年間)
平成23年 守山市長就任

風格ある文化薫るまちに。中心市街地活性化の取り組みを市全域に。

Q 中心市街地活性化基本計画に取り組むことになった経緯について教えて下さい。

平成19年に中心市街地活性化に向けた取り組みをするという話になり、中心市街地活性化推進委員会が立ち上がりました。30人位のメンバーで、その下にまちづくり、商業、環境、交通、担い手づくり、福祉、教育・文化と7つの部会ができ総勢120名位の体制で1年かけて議論を積み重ねました。私は当時、国から出向してきており、守山市の担当部長(技監)という立場で各部会に参加しました。市民と一緒に議論をしていく中で、まちの基本的な方向付けができたわけです。市民レベルの議論の中からまちなかの課題がかなり抽出できました。そういった課題が多くの方々のご協力のもとで結実したのが、守山小学校と幼稚園の合築だったり、「あまが池プラザ」、「うの家」だったりするわけです。中活の基本計画を提出する期限が平成20年の10月でした。翌年の3月の認定に間に合わせるには、しっかりした計画の案をつくらなければなりません。国というのは法律に基づいて、現状がどうで、なぜこの目標なのかといったことが全部積み上げられて整然とまとまっていることを求めます。そのストーリー作りがすごく難しい。当時、市の職員と数日間徹夜して完成させました。それがなかったら認定も遅れ、いいスタートを切れなかっただろうと思います。

平成21年5月17日 東門院門前アート市にて 守山市技監時代

Q 全国的にも注目を浴びている守山の中活。うまくいっているポイントとみらいもりやま21についてお聞かせください。

平成26年5月27日
第15回守山市中心市街地活性化協議会にて

守山での中活の取り組みがうまくいっている理由の一つは、市民の意見を十分に反映できているからだと考えています。市民の意見を全て取り込もうとすると、大きくなりすぎてしまいます。そこで、中でも実現可能なもの、そうでないもの、またこのアイデアとこのアイデアを足すともっといいものになるねと、そういう整理をしてきました。これは過去の経験(国土交通省時代、10都県でまちづくりに関わる)で実感していましたので、守山でその経験が生かせました。

もうひとつうまくいっている理由は、情報の共有です。商工会議所、みらいもりやま21、文化体育振興事業団、市が定期的に集まり、それぞれどういう思いで取り組んでいるか、具体的に動いているのはどういうものかなど常に意思疎通を図っています。いつも穏やかな場であるというわけではなくて、意見を戦わせることもあります。でも関係者が定期的に集まっているので、結果的には同じ方向に進んでいけます。よく聞くのは「中活の計画はできた。あとは全て担当者任せ、現場任せ。」という事例。そうではなくて「トップがつねに意識を共有し、課題解決の時にはしっかり寄り添って一緒に行動する。解決をする。」そういう姿勢が大事だと思っています。

みらいもりやま21には市も出資しています。行政だけ、民間だけではできないこと、まちづくり会社でなければ出来ないことを牽引していってほしいと思っています。民間のほかの取り組みについては公正な手続きに則って、やる気のある人を応援する。機会を均等に提供し手を挙げた人を応援する姿勢です。行政、商店街、商工会議所と、みらいもりやま21という会社が連携し、単体ではなかなかできないことをやれるというのが、まちづくり会社のメリットであり強みだと

思います。これまで、清原社長の素晴らしいリーダーシップのもと中心市街地のまちづくりをリードしてきていただきました。今後は連携力と突破力を活かした更なる展開を期待しているところです。

私は、守山のまちを日常的にどこかでコンサートが開かれているような、風格ある、文化の薫りがする、そういう街にしたいと思っています。ヨーロッパでは夕方になると、小さなまちでも広場や教会でコンサートがある。そういうまちになったらいいなと思っています。みらいもりやま21には、そういう仕掛けをしてほしいと思っています。有名な人をお金を払って呼んでこなくても、市、県全体を見回すと発表の場を求めている人がたくさんいる。そういう人が活動できる仕掛けを上手く作り、「守山で演奏するのが夢だ」となれば素晴らしいと思います。

もうひとつ、文化って食だと思うのです。健康に優しいとかこだわりの食とか、B級というものではなく本格的なものを提供したいです。地産地消にこだわってもいいし、健康にこだわってもいい、そういう本格的にこだわった食の展開ができたらなと思っています。今後予定されている「銀座商店街の建て替え」とか「近江鉄道ビルの建て替え」とか「セルバ守山1、2階の活性化」とかに、みらいもりやま21のネットワークでやる気のある若い経営者を引っ張ってきてほしいなと思っています。

中活1期目にはいわゆる“商店街活性化三種の神器”と言われる「100円商店街」「まちゼミ」「まちなかバル」イベントも行われました。若いスタッフの新しいものを取り入れる柔軟さ、リーダーシップで実現できた素晴らしい取り組みだと本当

平成25年7月27日 もりやま夏まつりにて

に感謝しています。そうした大きなイベントも大事ですけれども、日常生活の中でろうそくの灯りのように毎日灯るような、一人暮らしの方でも夕方あそこに行ったら、音楽を聞けてちょっと和むことができるとか、終わったあとにそこに居る人とちょっと雑談をして買い物して帰る、今日はちょっとまちなかでご飯食べて帰ろうかとか、1日満足して過ごすことができるようなまち、そういうまちの姿が大事だと思います。大きな花火だけじゃなくてろうそくの灯りを常に灯し続ける。そんな次の展開も期待しています。

まちづくりというのは歴史を積み重ねることだと思います。1年ではできないですし、亀の歩みのようにゆっくりだと思いますけれども、積み重ねることによって厚みのあるまちになっていく。これをあと10年20年と積み重ねることによって風格のあるまちができていくのだと思います。そんなまちを目指す中で、「チカ守山」が平成26年2月にオープンしました。守山のまちづくりにとって、非常に大きい出来事です。市は技術的支援をして、みらいもりやま21が整備主体になって国から補助金を受け、運営をシダックスに任せるという形です。この事業スキームは全国に例のない取り組みです。これは市の職員の編み出した知恵でもありますし、結果的に10年以上閉まっていた空間が上手く活用できるようになったわけです。今後はそこでのソフト事業の展開が大切です。みらいもりやま21には積極的に関わり、仕掛けてほしいなと思います。

Q 中活の活動を市全体へどう波及させていこうかとお考えですか？

中心市街地活性化に取り組む際、駅前周辺以外の住民の方からは、なぜそこにだけ投資するのかという意見が出ました。その際に申し上げたのは、「やはりまちの玄関口が元気でなければ全体は元気にならない、まずは駅前をやらせて下さい」と説明をしました。この5年間の取り組みによって駅前は以前より元気ある核が出来てきました。まだ民間の取り組みが残っていますが、うまく上向く基盤というものがこの5年でしっかりできたなというふうに思っています。

今後、成人病センターが100億円かけての増築を予定されていますし、将来的には運動公園を再整備し、市民が憩うことができ、散策もスポーツもできる公園に変えていきたいと思っています。そこには市民ホールも図書館もある。駅からつながるこの一帯のエリアは自然環境、医療、市役所、商業、教育、福祉、文化機能もあるというまちの1つの核になると思っています。

守山には素晴らしい歴史資源、自然資源がたくさんあります。中心市街地の活性化もそういった資源を活かしながら、地域のコミュニティーを活性化する

平成25年11月17日 もりやま冬ホタルにて

ことを大切にして取り組んできました。平成26年度から取り組んでいる「守山まるごと活性化プラン」もその考え方を全市的に適用しようとするものです。今後5年をかけて具現化をしていきたいと思っています。学区ごとにうまく歴史資源、自然資源を活かした取り組みが考えられているところです。平成26年度に開通50周年を迎える琵琶湖大橋や北部の観光リゾートの市街地、大型遊具が導入され多くの人が集まりだしたびわこ地球市民の森などもあり、それらがつながっていくことでより活性化されていくと考えています。駅前、北部、そして市全体それぞれの地域が元気になるような取り組みを展開していきたいと思っています。守山は都市のブランド化メッセージとして「The Garden City つなぐ、守山」を掲げ、市民のみなさんにも使っていただき対外的にまちのよさを発信していこうとしています。いろんな取り組みをつなげていく。人をつなぐもそうですし、地域資源をつなぐのもそう。琵琶湖と駅をつなぐとか、なんでもとにかくつなげていくことによってどんどん魅力あるまちにしていきたいと思います。

平成26年4月28日
守山市役所応接室にて

Mirai Moriyama21

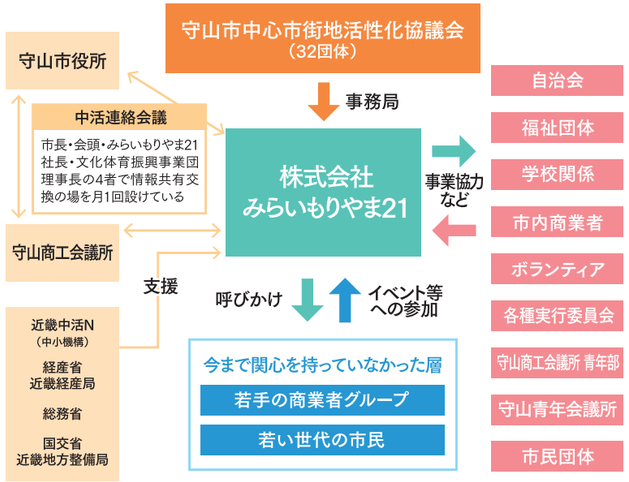
株式会社みらいもりやま21とは

その名の通り、みらいのもりやまを良くしよう！とつくられた会社です。

人と人、まちと人をつなぐ
まちづくりのパートナー。

株式会社みらいもりやま21は、当時の商工会議所会頭大崎忠男氏（故人）を発起人として平成20年9月に発足しました。発足以来、固定観念に縛られない発想力や、若さ溢れる行動力で、既存の団体と協働しながら、守山の活性化を目指し活動しています。

様々なまちづくり団体のパイプ役、引き立て役として活躍しています。



みらいもりやま21の変遷

平成19年7月	守山市、守山商工会議所、中心商店街の代表者らにより、第1回中心市街地活性化推進委員会を開催
平成20年9月	株式会社みらいもりやま21（まちづくり会社）設立
平成20年11月	第1回守山市中心市街地活性化協議会開催
平成21年3月	内閣府より守山市中心市街地活性化基本計画認定
平成21年5月	ふるさと雇用により、3名のプロパー社員を雇用
平成21年6月	みらいもりやま21第1回株主総会開催
平成23年5月	みらいもりやま21本社事務所移転
平成23年10月	経済産業省戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費交付決定（うの家テナントミックス）
平成24年1月	守山市歴史文化まちづくり館指定管理開始
平成24年7月	守山市中心市街地活性化交流プラザ指定管理開始
平成25年5月	経済産業省中心市街地魅力発掘・創造支援事業費交付決定（セルバ守山地下施設整備）
平成26年2月	セルバ守山地下施設「チカ守山」オープン

株式会社みらいもりやま21取締役会

設立当初は事務所が、市役所西棟にあり、そこで開催しておりました。都市再生課と机を並べ、まさに官民一体で取り組みました。
毎月1回のペースを守り続け、平成26年6月10日に第99回を開催しました。

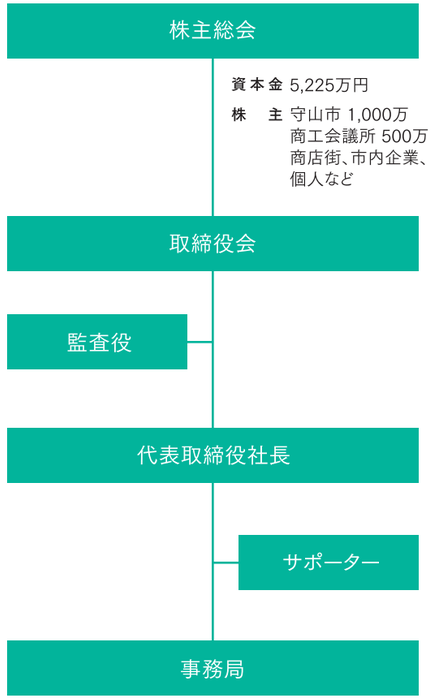
株式会社みらいもりやま21株主総会

地域の活性化が投資への代価であるという考えの株主様に支えられて、みらいもりやま21は存在しております。

守山市中心市街地活性化協議会

守山の中心市街地活性化を協議する最高の意思決定機関です。みらいもりやま21は、この組織の事務局を務めています。
平成26年5月27日に第15回を開催しました。

みらいもりやま21の組織図



Mirai Moriyama21

視察・勉強会

みらいもりやま21は創立以来、全国各地へ視察研修をおこない、また各地の講師にお越しいただき、まちづくりの先進事例を学んでまいりました。

近畿中心市街地活性化ネットワーク研究会

近畿で中心市街地活性化に取り組む各地域のまちづくりに関わる組織の担当者らで、情報共有、意見交換の場をもとうと平成21年より始まった会です。第1回より欠かさず、社長と職員で参加し、守山のまちづくりに大いに役立てています。

平成26年2月20日第17回高槻開催のときのもの

先進事例講演会

全国各地で活躍される方をお招きして、まちづくり講演会を開催しました。

平成20年9月4日
株式会社金沢商業活性化センター
高本泰輔ゼネラルマネージャー

先進地視察

平成21年9月に長野、平成21年11月に伏見、平成22年1月犬山、平成22年3月府中・倉敷・柏原、平成23年2月秩父、平成23年11月和歌山、平成26年3月高松など、さまざまな地域を商店街や協議会メンバーとともに訪れました。

平成21年9月16日長野市「パティオ大門」

平成22年3月11日広島県府中市「恋しき」

特に同様の施設の視察研修は、平成24年1月にオープンさせた「うの家」の参考になりました。

Mirai Moriyama21

守山ブランドの開発

さまざまな商品を企画開発し、現在、「うの家」や「駅前総合案内所」などで販売中です。

飴

JAおうみ冨士の協力のもと、モリヤマメロンのピューレを使用した「メロン飴」や地元特産品の笠原しょうがを使った「しょうが飴」、守山のほたるにちなんだ「ほたる飴」を企画開発しました。

メガネ拭き

中山道守山宿、ほたる、近江妙蓮の3種を企画開発しました。

ハンドタオル

新聞にも載りました!

もーりーを刺しゅう
23日から ハンドタオルなど販売

もーりーの刺繍が入っているものや笠原の桜をプリントしたものなどを企画開発しました。

もーりーグッズその他

その他、メーカーの協力のもと、多種の商品を企画販売しております。

Mirai Moriyama21

情報発信

ホームページやブログを使い、さまざまな情報発信に努めています。身の丈にあった、「守山のまちづくりを参考にしたい」と最近、視察や研修にお越しいただける方が増えてきています。

みらいもりやま21

http://moriyama21.jp/

会社の概要や株主総会の内容、今後のスケジュールなどあらゆる情報を掲載しています。

滋賀咲くブログ

http://shiga-saku.net/

滋賀県の主婦に人気の無料ブログです。市内の店やイベントの紹介など、実際に現場を歩き回っているスタッフが更新しています。

あまが池プラザ

http://www.amg-p.jp/

講座やイベントの開催など毎日更新しています。

うの家

http://www.unoke.jp/

蔵で行われる展示会などの情報を掲載しています。

Mirai Moriyama21

受賞歴

様々な取り組みの中で、賞をいただきました。

平成24年3月27日

第4回京信・地域の絆づくり大賞 保存・活用・再生賞受賞

第4回の京信・地域の絆づくり大賞テーマ『残そう町家・守ろうコミュニティ』に弊社が守山市歴史文化まちづくり館（守山宿・町家うの家）について、『町家』を保存・活用・再生して次代へ継承しようという取り組みで応募させていただいた結果、約60組の応募の中から、『保存・活用・再生賞』を受賞いたしました。

平成25年

第2回ふるさとウエディングコンクール 審査員賞受賞 -守山宿・町家 うの家-

美しい景観、郷土料理、伝統工芸品…など、地域ならではの魅力を活かしながら、子供たちを含め多くの人達の祝福を受けつつ、感動で満たされる市民参加型の挙式スタイル「ふるさとウェディング」の普及を目的に観光庁、総務省後援のもと、全日本ブライダル協会が主催するコンクールにて、「うの家」で弊社の協力のもと、開催された挙式が審査員賞を受賞しました。

平成23年6月

滋賀Web大賞2011 地域活動団体部門入賞受賞 -みらいもりやま21ホームページ-

平成25年6月

滋賀Web大賞2013 公共団体部門優秀賞受賞 -あまが池プラザホームページ-

これは安全・安心で豊かな地域社会を築くことに貢献する優れたウェブサイトを表彰し、紹介する事により、ウェブコンテンツの充実、ITの利活用の推進および滋賀の魅力ある情報発信の強化を図ることを目的として滋賀県が開催したものです。

Mirai Moriyama21

みらいもりやま21が関わった様々な取り組み

主役はあくまでも市民、商業者。守山のまちづくりの縁の下の力持ちを目指しています。

ほたる探検紀行（バル）

平成22年6月「ほたるパーク＆ウォーク」と同時に、バルイベントを初開催。毎年、市内の約60店舗が参加し、平成26年6月に第5回を実施。

もりやま100円商店街

平成22年12月「もりやまいち」と同時に初開催。当日は通行量が通常の5倍となり、まちの至るところに行列ができた。

まちゼミ

平成23年1月に商工会議所による初開催に協力。平成25年10月には第4回を開催。平成24年より、草津、栗東、野洲を加えた4市で合同開催となっています。

3事業はすべて、滋賀県初の開催であり、新聞等でも取り上げられ大きな話題となり、守山が動き出したというイメージづけに貢献できました。

中山道守山宿ひなめぐり

毎年、2月下旬から3月上旬にかけて、中山道の町家や商店の方に呼びかけ、ひな人形を飾っていただき、それをマップにして巡っていただくイベントを実施しています。

和っと守山中山道

最優秀賞　藤村夏子さん「和で心もほっこりと」

守山市商工観光課からの委託事業として、中山道のにぎわいづくりのため、平成21年より毎年秋に実施しています。
昨年、守山市民新聞の協賛で「和のフォトコン」をおこないました。写真はグランプリ作品です。

お化け屋敷

市民の団体「TEAM mega」「NPO滋賀ものづくりネット」らにより、平成25年より毎年7月にあまが池プラザにて開催されています。

町家歴史塾

うの家の南蔵を使って、定期的に歴史講座を開催しています。守山や中山道にゆかりのある人物や出来事をテーマに、様々な講師を呼びます。

事務所の移転

個人宅であった建物を地主様の協力により、市の「中山道守山宿街なみ景観づくりに係る補助金」を活用し改修しました。
手前は「和奏」（ふくさのブランドショップ）、奥が本社事務所となっています。

before

after

中心市街地活性化基本計画って?

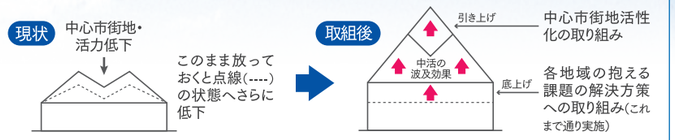
まちなかを活性化させるための方針や施策・事業などを定めたものです。この計画が国から認定されると、国の様々な支援策を活用することができます。

守山市全体から見た中心市街地活性化の背景について

背 景

①少子高齢社会の到来
②将来の都市間競争の激化
③中心市街地の活力の低下
④地球温暖化やエネルギー事情への対応の必要性
⑤「集約型」の都市構造への移行

中心市街地活性化の効果(模式図)



中心市街地活性化の取組みにより、中心市街地の活力を引き上げるとともに、その波及効果により、市域全体の活力の底上げを図ります。

中心市街地の課題

- ○ 教育・福祉機能の充実の必要性
- ○ 商業機能の充実の必要性
- ○ コミュニティの再生・強化の必要性
- ○ 地域資源を活かした取組みの必要性
- ○ 住み続けたくなる良好な居住環境形成の必要性

課題をふまえ、基本理念を定めました。

基本理念

絆と活力ある「共生都市」の創造

絆

人と人との絆
人と小河川等の自然のつながり
人と中山道等の歴史のつながり
地域資源・既存ストックのつながり(連携強化)
歩いてつながる

活力

都市機能の集積
商業機能の充実

共生

人と人の共生
人と文化の共生
人と自然の共生
人と歴史の共生
都市の魅力と住みやすさの共生

みらいのもりやまに向かって、どんな「まちづくり」ができるだろう?

絆と活力ある「共生都市」の創造を基本理念としたまちづくり

中心市街地活性化基本計画区域

コンパクトなまちづくりを推進し、
居住または都市機能を誘導すべき区域として
JR守山駅から歩いて行ける概ね
1kmの範囲の146haを中心市街地の
区域として設定しました。

目標1

子どもから高齢者まで幅広い世代が共生できるまち。

- ○小学校・幼稚園・福祉文化施設の合築(複合化)
- ○歴史文化拠点の整備
- ○読み聞かせ等の子育て支援機能の強化
- ○既存大規模店舗改築による質の高い商業拠点の整備
- ○自然を身近に感じることのできる親水公園

目標2

住民参加により地域資源を活かし、魅力的で歩いて楽しいまち。

- ○小河川を活かした「水辺遊歩道ネットワーク」形成
- ○歴史資源を有機的に結ぶ「歴史回廊ネットワーク」形成
- ○四季の感じられる並木道整備
- ○空店舗等の活用による店舗誘致
- ○公共交通の充実、自転車活用・自転車道の整備

みらいに向かって進みはじめた、もりやま市街地。

平成24年7月 OPEN 守山市中心市街地活性化交流プラザ（あまが池プラザ）

小学校・幼稚園の合築

あまが池親水緑地の整備

守山小学校、幼稚園の合築と合わせて、一体的に整備された市民ギャラリー、いきいき活動広場を備えた福祉・文化交流施設。地域活性化施設として、飲食店舗を併設。

にぎわい広場の整備

中心市街地交流駐車場の整備

水辺遊歩道ネットワークの整備

JR守山駅

もりやま トライアングル ゾーンマップ

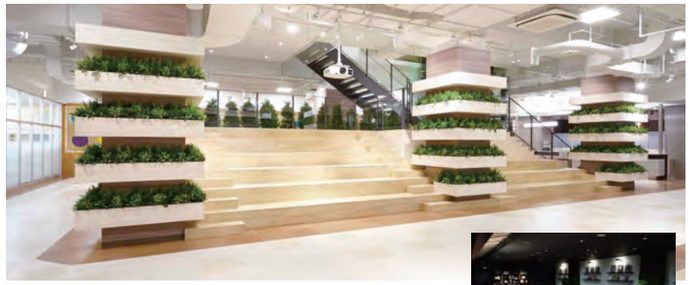
トライアングルゾーンとは？

中心市街地における3つの拠点施設（うの家、あまが池プラザ、セルバ守山）を結んだ駅前から銀座通り、中山道、ほたる通りのトライアングル（三角形）ゾーンであり、これら拠点施設が連携したイベントを実施すること等により、回遊性の向上を図り、中心市街地全体の活性化につなげるものです。

平成24年1月 OPEN 守山市歴史文化まちづくり館（うの家）

展示室、ギャラリーを備えた守山に関する歴史文化の拠点施設。地域活性化施設として、飲食店舗を併設。

平成26年2月OPEN チカ守山（セルバ守山地下）



カルチャースペース、カフェ、キッズフロア、コミュニティショップ、守山市場、パブリックスペースを備えただれもが安心・安全に楽しめる食と文化のハートコート。

守山市歴史文化まちづくり館

守山宿・町家“うの家”

故きを温ねて新しきを知る

平成24年1月オープン。
故宇野宗佑元総理大臣の生家を市が購入、整備し、みらいもりやま21が指定管理者として運営管理。テナント部分は経済産業省戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費を活用し、みらいもりやま21が整備。守山の名誉市民や歴史の展示、ギャラリーがある。蔵や庭など、かつての佇まいを残しつつも、若い世代が集える場所となっている。コンセプトは「郷土愛を醸成する場所」。

建物の造りも必見です！

所在地	〒524-0022 滋賀県守山市守山一丁目10-2
TEL	077-583-2366
受付時間	9:00～17:00（貸館のみ 9:00～22:00）
休館日	毎月第1・第3火曜日/12月29日から翌年1月3日
駐車場	中心市街地交流駐車場 40台駐車可能

南蔵
ギャラリー、イベントホールとして活用。

エントランスホール
ギャラリーとして活用。

南蔵
子どもの体験教室で活用。町家に親しむきっかけづくり。

庭
マルシェなどのイベントスペースとして活用。

うの家のレストラン・カフェ

守山 中山道 咲蔵 SAKURA

宇野宗佑氏が実際に暮らした居室を改装し、掘りごたつ付きの寛げるレストランに。店主は有名店で修行し、独立。近江牛の最高ランクA5を扱う店として、個室もあり様々な地元企業の接待等にもよく利用される。南蔵を活用した披露宴など、うの家と共同での事業も多く実施。

営業時間 11:30～15:00
※夜のみ予約制 17:00～22:00
TEL 077-583-5108
定休日 毎週火曜日

咲蔵御膳2,500円/ヒレステーキ重3,360円/コース料理3,800円～/近江牛懐石5,000円～/珈琲300円（税別表記）

慶弔料理承ります

和ふ庵 SHINOBUAN 和カフェ

酒造りに使用されていた「蔵」を利用し、温かみがあり寛げるカフェとして誕生。新鮮な地元産のお野菜、老舗店からノウハウを学び提供する蕎麦と、目の前で淹れてくれるサイフォン式の珈琲が特徴の店。スタッフの笑顔が自慢の店。

営業時間 11:00～17:30
TEL 077-583-0082
定休日 毎週火曜日

ワンプレートランチ1,200円/店長きまぐれ3種プレート800円/珈琲（ライト・マイルド・ストロング）/430円/紅茶各種430円（税込表記）

毎月17日は夜も営業しております。（18:30～22:00）

守山市中心市街地活性化交流プラザ

あまが池プラザ

多世代の絆をつなぐ

平成24年7月オープン。
小学校幼稚園と隣接し、元々商店街の建物だった場所に、このあまが池プラザが一体的に整備された。みらいもりやま21が指定管理者として、運営管理。守山市中心市街地活性化基本計画の顔であり、要である。全国的にも珍しい事例として注目を集めている。オープン以来、予想を超える稼働率と来館者で賑わっている。

所在地	〒524-0041 滋賀県守山市勝部一丁目13番1号
TEL	077-514-2505
受付時間	9:00～17:00(貸館利用は22:00まで)
休館日	毎月第1・第3火曜日(祝日にあたる場合はその翌日) 12月29日から翌年1月3日
駐車場	中心市街地交流駐車場 40台駐車可能

いきいき活動広場(3階)
百歳体操や回想サロンなど高齢者向けの教室に活用。

市民ギャラリー(2階)
写真や絵画の展示やスポーツ教室、イベントホールとして活用。

エントランス
大きな窓を開放することで、外の空間と一体的に活用。

あまが池親水緑地
さまざまなイベントの中心ゾーンとして活用。

あまが池プラザ併設のカフェ

Cafe & Forrest　シェマシェリ

SiEMA CHERiE

毎日、市場で仕入れる生花を並べたフラワーショップを併設した、本場イギリス仕込のパンケーキやキッシュが自慢のカフェ。洗練されたスタイリッシュな外観と内装は、守山で他に類を見ないほどオシャレと評判。

営業時間 11:00～18:00(以降は要予約)
TEL 077-583-1880
定休日 不定休

LUNCHプレート1,480円/クラシックパンケーキセット1,080円/紅茶・コーヒー 450円～ 他　(税込表記)

食堂カフェ　マダニス

MADANIS

オーナーシェフがさまざまな飲食店での経験を活かし、オリジナル欧風料理を提供。昼間のランチは主婦を中心に若い女性で賑わう。夜間も老若男女様々な客層で賑わうと同時に、ライブや二次会利用が増えている。

営業時間 11:00～22:00
TEL 077-583-3006
定休日 火曜日

45名までパーティー可能です。

こだわりのコーヒー各種 380円～/ランチ パスタ・プレート・スープランチ 1,000円～/スイーツセット 780円～/ディナー、各種アラカルトやメイン料理のコースもあります。　(税込表記)

セルバ守山地下施設有効活用 チカ守山

“食と文化”をキーワードに！

「チカ守山」は守山駅直結の住商複合ビル（セルバ守山）の地下1階に平成26年2月にオープンした複合施設。カルチャー、カフェ、キッズ、コンビニ、パブリック、市場の6区画からなる。長年空き店舗が埋まらず、課題となっていた地下施設の活用法を市で公募したところ、シダックス大新東ヒューマンサービス（株）が応じ、みらいもりやま21が経済産業省中心市街地魅力発掘・創造支援事業補助金を活用し、整備した。施設の運営は、シダックスグループがおこなっており、守山駅前の新たな核施設となることが期待されている。

所在地	〒524-0037 滋賀県守山市梅田町2-1-1 セルバ守山B1
受付時間	8:00～0:00（店舗によって異なる）
休館日	年中無休
駐車場	あり（チカ守山利用で2時間まで無料）

守山市場
JAおうみんちや、近隣商店から仕入れた野菜や名産品が所狭しと並べられる。

パブリックスペース
定期的にコンサートや大型スクリーンを利用した、スポーツのパブリックビューイングなどが開催される。

チカカフェ
パンケーキやオムライス、デザートまで豊富なメニューで若者からお年寄りまで気軽に利用できる。

エスキッズフロア
専用の遊具やトイレ、シャワーなどを設置し、手ぶらで子連れで来ても安心して楽しめる施設となっている。

守山のママさん座談会

守山ママのリアルな声をお届けします！

五味さん・大西さん・西出さん・清水さん

ほどよい田舎と便利な都会が同居する中心市街地。住みやすさと、子育て環境に満足！

Q 守山に来られたきっかけについて教えてください。

西出　子どもの頃、父の転勤で滋賀に来ました。野洲から守山に引っ越して9年半になりました。高校生と幼稚園の子どもがいます。守山は子育てにはいい環境で気に入っています。適度に緑もあり、新快速が止まるので交通も便利ですね。

大西　出身は愛知県です。15年前に夫の転勤で栗東に来ました。中学生2人と幼稚園で子は3人です。滋賀は新幹線で通り過ぎる場所でした。イメージもイコール琵琶湖みたいな感じで。親戚もいないし最初不安でしたが、滋賀は住みやすいところです。自宅の購入を検討した際に教育環境なども考えて4年前に守山に引っ越してきました。

清水　関東の出身で独身時代は東京・大阪にいました。10年前に夫の実家がある守山に来ました。滋賀に来た時には、最初どうしようかと。夜は暗いしお店もないし、琵琶湖も日本一だからと思ったけど何もないし。でも、子育てするには緑も多いし、どこにでも出やすいし、今はすごくいいところだなと思っています。滋賀県はいいところがいっぱいあるのにアピール力が弱いなということも感じます。少し地味な感じで。小学生と幼稚園の子が2人います。

五味　三重県出身です。結婚して近江八幡に来ました。寒いのが苦手だったのと、教育環境も考え、9年半前に守山に引っ越してきました。守山の事知らなかったので、心配でしたが、今は引っ越してきてよかったと思っています。住んでいるところに同年代の子どもも多いですし。子は小学生と幼稚園児です。

Q 最近の守山について感じるところなどあれば。

西出　このあいだ、はじめてバルイベントに参加しました。主婦で子どもがいると普段はなかなか出にくいんですが、ママ友と一緒に参加しました。こんなイベントもあったんだと感心しながら楽しませていただきました。

清水　一緒に私も参加しましたが、すごく多くの人出でびっくりしました。よく見ると、街角にポスターが貼ってあったり広報に出てるんですね。情報がもっとわかりやすいといいですね。イベントに女性は大事ですので、たくさん参加して盛り上がるためにも。

五味　守山に来た時に病院が多くて感動しました。成人病センターもさらに増築すると聞いていますし、そういう面でも安心感は大きいですね。

Q 守山に来てどうでしたか？

西出　人のめぐり合わせがよく、付き合いやすい友達がたくさん出来ました。地域の学区とかも自分ではあまりよく知らなかったのですが、友達からは人気エリアと羨ましがられています。

大西　私も付き合いやすい人が多くて嬉しく思っています。子どもも小学校でも中学校でも落ち着いた環境で勉強や部活に取り組めているようです。私の住まいは駅に近いので家族の成長や自分が年をとってからのことを考えても安心できる環境だと思っています。

清水　よく言われる、ほどよく田舎でほどよく都会で便利ですし、大人も子どももののびりしている感じがしていいですね。私は子どもの頃は大阪で育ちましたので、いつも何かに追われているような忙しい感覚を持っていました。ここでは、小さい子どもが危なそうなことをすると、近所のおにいちゃん、おねえちゃんが止めてくれますし、安心して子育てできる環境を実感しています。暮らしやすいです。

五味　新興住宅地に住んだので、すぐに地域の役員にならなければならなかったのですが地元の人が親切な人が多く、気持ちも楽でした。子どもを連れて散歩している時に気軽に声をかけてくれ「受け入れてもらっている感」をすごく感じました。それが今もつながっている感じです。

Q もっとこうなればというご意見などありましたらお聞かせください。

西出　駅前の限られた部分は本当に綺麗になりましたが、駅の東口や銀座商店街などももっと綺麗になるといいですね。

五味　ところどころ夜は暗くて怖い場所があるので、安心して歩けるように工夫していただけたら嬉しいです。それから中学校の給食もぜひ実現して欲しいです。

大西　駅前に自転車を置く場所がなくて不便です。今ある駐輪場はどこも全て一杯です。

清水　他の市に住む友達には市役所が古いねと言われました。そのせいか少し暗い感じもします。

もりやまで活動する人

Q1 自己紹介と現在の活動についてお聞かせください

Q2 守山について思っていること教えてください

もりやま青年団

小笠原 大輔さん

守山青年活動研究会、守山青年活動を経て平成24年「もりやま青年団」名称変更とともに初代団長に就任。平成24年D1だじゃれグランプリ全国大会優勝。平成26年も全国大会優勝を目指す。カホンなど打楽器、民族楽器にも造詣が深い。守山市立物部小学校教諭。守山市石田町在住。

地域での思い出、楽しかった記憶。子どもの時の積み上げが、将来地域に返ってくる。

A1 成人式実行委員会への関わりから平成17年に始まった守山青年活動研究会に参加することになりました。そこから守山青年活動が生まれ、平成24年からは「もりやま青年団」と名前を変え現在に至ります。同級生たちが結婚や就職でまちを離れていく中、私の最初の職場は野洲の北野小学校。車で10分。結局どっぷりと地域と関わってきました。研究会が立ち上がり、実際に若者が具体的に取り組む何かを模索する中で出てきたのが休耕田を活用した「パディ・フェスティバル(泥んこバレー)」でした。1回目を平成18年に開催、平成26年で9回目になります。その他、冬には保護者から預かったプレゼントをサンタとトナカイに扮したメンバーがサプライズで子どもたちに届ける「サンタ企画」や平成24年からは「もりやま☆こんにちワーク」と題する子どもたちの職業体験イベントも行っています。

A2 ここ数年、若者が地域に出ていけるイベントが増えたなと感じます。みらいもりやま21の取り組みなどの影響も大きいですね。私自身、学生時代に3年ほど京都で暮らしていました。外に出て「自分は玉津で育てられてきた」ことを実感しました。居心地もいいし、愛着もある。地域のために何かしたいと思うようになりました。家庭、学校、地域。地域コミュニティを語る際よく出てくる3つです。家庭はなんともし難い部分ですが、学校と地域をつなぐ活動を公私ともにしていければと思っています。「守山にはこんなイベントがある、こんなに素敵な場所があるんや」ということを子どもの時に体験しているかどうかで大人になってからの地域に対する考え方が変わるのではないかと思います。子どもたちの中に地域の思い出、楽しかった記憶を作っていく。それがゆくゆくはまちの発展につながっていけばと考えています。

止まっていた歯車が動き出した。さらなる世代を超えた人々の融合を。

A1 今年で「守山市民新聞」は創刊43年になります。現在は記者3名、編集3名、総勢6名のスタッフで「地域に密着、紙にこだわり」新聞を発行しています。編集室は平成21年12月に湖南幹線道路整備に伴い横江町から今の金森町に移転しました。前を通る道路には「語らい学び舎(や)通り」という名前も付き新聞発行にいい環境で日々がんばっています。長い歴史の中で新聞の名称も「サンケイローカルニュース」「モリメイトニュース」を経て、より地域密着を、との想いで平成5年から「守山市民新聞」になりました。「黄色い新聞」で親しんでいただいています。こんなに長く続いているミニコミ新聞は全国でも珍しいと思います。地元の皆様が“笑顔”になれるような紙面づくりと“地元びいき”をこれからも続けていたきたいと思っています。

A2 この5年、守山で止まっていた歯車が動き出したような、そんな印象を感じています。最初はニューカマーであったみらいもりやま21の頑張りも大きなポイントだと思います。私たちの中心市街地での取材回数もずいぶんと増えました。大きなイベントだけではなく常に小さいイベントがあります。マンネリになりがちなイベント内容にも工夫がありそれをマスコミに情報提供するのにも一工夫あります。県で初めてとか、数字へのこだわりだとか。インターネットを活用した情報発信力のセンスも素晴らしいと感じています。中活1期目の5年でできたいい流れを、どう市全体へ広げていくのか。次の展開も楽しみにしていますし、みらいもりやま21が核になって旧住民と新住民、年配者と若者など世代を超えたフェイストゥフェイスの出会い、さらなる融合にも期待しています。

守山市民新聞編集長

太田 文人さん

有限会社守山新聞センター発行「守山市民新聞」編集長。先代の太田一廣さんの三男として、その意志を引き継ぎ地域密着型ミニコミ新聞を守り続ける。守山市金森町の編集室横では県内唯一の阪神タイガース球団承認「虎ファンSHOP」も経営。守山市今宿在住。

二代目もりやま卑弥呼

萩原 綾香さん

立命館大学3回生在学中。高校生の時に滋賀美少女図鑑モデルオーディション合格。平成24年守山商工会議所青年部主催の「もりやま卑弥呼コンテスト」グランプリ受賞、二代目もりやま卑弥呼に輝く。2014ミス・ユニバース・ジャパン滋賀大会準グランプリ。守山市今宿在住。

「二代目もりやま卑弥呼」であらためて知った、守山の素晴らしさ。人の温かさ。

A1 まちなかで生まれ、まちなかで育った生粋の守山っこです。実家は中山道沿いで金物店を営んでいます。 平成24年に「二代目もりやま卑弥呼」に選ばれ、任期の1年間、様々なイベントにも参加しました。小さい頃からよく知っているはずの守山について実は知らないことだらけだったことに気付き、あらためて自分の生まれ育ったまち「守山」が大好きになりました。 卑弥呼として守山のPRに関われたことはとても貴重な経験でした。商工会議所青年部の方々のエネルギッシュさにもとても驚きました。今は学業が忙しく家と学校の往復で1日があっという間です。私の同年代は「どうせ無理」とはじめから夢をあきらめている人も多いのですが、興味あることに目を向け夢に向かってお互い刺激しあいながら頑張っ ていければいいなと思っています。

A2 駅から近くに住んでいますので、交通も便利で住みやすいまちだとずっと感じていました。昔は学校の部活終わりでマクドナルドにばかり寄っていましたが、最近はお店も色々と出来て行くところが増え、生活が楽しくなりました。でも駅から離れたところのおしゃれなお店にはクルマを持たない若い人は行きづらいですね。もう少しバスが便利に使えるまちになればいいなと思います。私が守山で一番好きなところは、やっぱり「ほたる」です。近くのお店でアルバイトしているのですが、その帰りにほたるを眺めながら癒やされています。お店は増えましたけど、帰りが遅くなると銀座商店街は暗くて少し怖いです。もっとお店が増えて女の子が安心して歩けるようになれば嬉しいですね。

もりやまで活動する人

Q1 自己紹介と現在の活動についてお聞かせください

Q2 守山について思っていること教えてください

ピースマム編集長、ピースマムプロジェクト代表

廣瀬 香織さん

兵庫県出身。結婚後滋賀県に住み、子育てをしながらフリーペーパーの記者・営業を経験。平成20年働くママのためのフリーマガジン「ピースマム」を創刊。編集長として活躍。読者同士での情報交換やコミュニティの場を提供するイベントも企画開催。守山市小島町在住。

最近まちにベビーカーが増えた。お母さん目線の優しい景色づくりに期待。

A1 新婚時代を南草津で過ごし、今は小学生の息子と中学生の娘と夫の4人で守山に住んでいます。「ピースマム」は一貫して「働くママを応援する」をキャッチフレーズに現在は年7回発行しています。私自身子育てをしながらフリーペーパーの仕事をしていた経験があり、自分のほしい子育て情報誌がなかったのが創刊のきっかけです。創刊時から色々なセミナーやイベントをしてきましたが、最近は働くママのスタイルも正社員、契約社員、パートと多様化してきました。中には自分のキャリアを活かした本業を続けながら自分のやりたいことも仕事にしてしまう「Wお仕事」スタイルのパワフルママさんも増えてきました。この5年で男性の育児参加も盛んになり時代の変化も感じます。今後は乳幼児の子育て支援だけでなく、その後、小学生、中学生となる子どもたちと親が毎日笑顔で暮らしていけるような情報発信もしていきたいと思っています。

A2 ここ数年、守山駅周辺でベビーカーを押している人を見かけることが多くなった気がしています。歩いていけるところで催しがあったり、色々なお店もできたし、マンションもずいぶん増えました。「とりあえずクルマに乗せて走る」という滋賀スタイルが駅前では変化してきているように感じます。ベビーカーや抱っこ紐を使うママが気になるのは子どもの目線の先です。目線の先に花やかわいいものがあると、とても楽しくまちを歩けます。そういう目線の先も意識したまちの普段の景色づくりも大切です。あまが池プラザはイベントでも使わせていただいていますが、小さな子ども連れでも安心して楽しく利用できる嬉しい施設です。イベントのあとにお洒落にお茶が楽しめるのもママたちに好評です。

女性とシニアが暮らしやすいまちに。豊かな自然と共生する100年後、200年後を考えたまちに。

A1 14,5年ほど前に守山にある夫の実家に住むようになりました。夫の両親や祖母、弟と8人の同居生活で色々なストレスも抱えていました。ある時娘に「ママの顔はこんな顔」と眉間に皺を寄せ口角を下げた表情を見せられショックを受けました。背の高さをはじめ、その頃の私はコンプレックスの塊でした。娘の一言がきっかけで「自分を変えたい」そう思いました。まずは外見からと、その頃流行りだしていたカラーコーディネートの勉強を始め、その後、ウォーキングやフィニッシングスクールにも通いスキルアップしてきました。現在は一般の方や、大学、専門学校、企業を対象にカラーコーディネートやビジュアルコミュニケーションについての講座や研修などを行っています。また婚家が兼業農家ですので、農業、大工、主婦業を3分の1ずつのバランスでやるようにしています。

A2 守山は生活に便利なとても住みやすいまちだと以前から感じていました。守山には自然環境もたくさんあります。ぜひもっともっと自然との共生感あるまちになってほしいなと思っています。100年後、200年後まで考えて、自然環境を残し、でも心豊かでひもじくない社会。みらいもりやま21のネットワークで女性やシニアの方々の力も使ってできることがたくさんあるのではないでしょうか。日中、まちを活用している多くは女性とシニアです。女性とシニアが暮らしやすいまちになってほしいと思っています。そして、人々が病気にならないまち。そのためには衣食住はもちろん、生活のストレスやあらゆる問題が関わってきますので、そういったことも考えていかねばなりません。本当のすみやすいまちに期待を込めて。

カラー＆イメージコンサルタント、ウォーキング＆ビジュアルアドバイザー他

村上 瞳さん

岐阜県出身。大学卒業後化粧品メーカーに就職。結婚、妊娠を機に退職。第一子出産後、佛教大学英文科3回生に編入。中高英語教員免許を取得。その後、カラーコーディネートやウォーキング、フィニッシングなどを学び、現在は指導者として活躍。守山市今市町在住。

TEAM mega 代表

村田 和也さん

平成23年、地元自治会で中学同級生の3人とともにラジオ体操の取り組みを始め、その仲間とともにTEAM megaを立ち上げる。「楽しむことのプロ」を合言葉に活動範囲も広がり、メンバーも平成26年5月現在では86名と拡大中。メガネのムラタマネージャー。守山市木浜町在住。

おもしろい”人”、”こと”、”場所”に人は集まる。そんな中から本当の「市民参画」が実現する。

A1 あるとき、みらいもりやま21の石上くんと出会い、京都から来たよそ者なのに守山のことも人もよく知っているし熱い想いを持っていることに恥ずかしさとともに悔しさも感じました。自分の地元でも何かしたい。でも何をしたらいいのかわからない。そんな時、息子の付き添いでラジオ体操に行った時に「これだ！」と思ったんです。健康にいいし、普段から顔を合わせていれば地域の活動などに参加しやすくなる。同級生3人を巻き込み、地元自治会でラジオ体操をスタート。その仲間がTEAM megaになり、その後どんどん仲間が増え続けています。最近はラジオ体操以外の様々なイベントも手がけていますが、軸としているのは「自分たちが面白いと思ったことを楽しむ」という事。活動を通して想いを持った人々がつながり、その人達がまた活躍していくことで地域が元気になればいいなと思っています。

A2 まちづくりも結局は人。人が影響されたり面白いことに出会ったりしながら、自分も動き出す。みらいもりやま21の取組みも職員の熱い想いがあって、それが相手に伝わった時、「自分たちもがんばらな」と色々なものが動き出すのではないかと思います。いつも決まった顔ぶれや団体が集まる「市民参画」ではなく、次から次へと新しい人が出てくる「市民参画」がこれからは大事だと思います。「おもしろい”人”とか”こと”とか”場所”に人は集まってくる」ものですから。ラジオ体操の良さはだれでも気軽に参加できて定期的に顔を合わせ自然に繋がり合えることです。結果、防犯効果も高まるし地域力も上がります。市全体へと波及して、『TEAM守山』といえるようになると面白いですね。